

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国語国文学 Japaness Literature		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国語の表現力を高めたいと考えている人には「国語表現Ⅰ～Ⅳ」の科目の受講が望まれる。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
読書の楽しみを深めたい人は「文学の世界Ⅰ」(日本の名作)、「文学の世界Ⅱ」「世界の名作」の科目の受講が望まれる。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大室 精一	みかも館2階	月火水木の9時～16時(授業時間除く)		授業中に指示します
授業の概要				
①昔話の学習(集団の前で順次朗読→あらすじをメモする→印象深いシーンをイラストで描く→昔話の特色を解説する。) ②テキストの学習(社会人となるための基本的事項を毎時間1章ずつ講義する。) ③文学鑑賞(代表的な文学作品を適宜紹介して解説する。) ④漢字練習・国語常識(漢字は読み書き・難読語等を扱い、国語常識では旧国名・月の異名・ペンネーム等を扱う。)				
授業の目標				
①昔話の学習(昔話の理解が深まり、朗読する力を身に付けることができるようにする。) ②テキストの学習(社会人となるための基本的事項の知識を養うことができるようにする。) ③文学鑑賞(代表的な文学作品を分析し、その魅力を説明する力を身に付けることができるようにする。) ④漢字練習・国語常識(社会人に必要な国語力を身に付けることができるようにする。)				
授業の方法				
この授業の方法は、以下の3項目となる。 ①講義が中心になるが、一部に演習形式(集団の前で朗読・ディスカッション)を含む。 ②毎時間プリントによる学習であり、表面は「昔話・テキストの要旨・国語常識」、裏面は「漢字練習」である。 ③プリントの最後に「本日の授業で考えたこと」を記入して学習内容のポイントを確認する。質問も同時に記入する。				
学習の成果(学習成果)				
この授業を履修すると、あなたは ①昔話の特色を理解し、集団(子ども達)の前で聴衆の反応を確認しながら朗読する力を身に付けることができる。 ②社会人となるための基本的知識やのマナー(敬語・手紙)を身に付けることができる。 ③代表的な文学作品の特色を理解し、その魅力をわかりやすく伝えられる力を身に付けることができる。 ④社会人として必要な常用漢字の力と、様々な国語常識を身に付けることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス(勉強の心構え・講義計画・プリント・課題・成績評価等について) プリント学習(漢字練習)			
第2回目	朗読：昔話①「桃太郎」	テキスト「敬語Ⅰ 尊敬語」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第3回目	朗読：昔話②「一寸法師」	テキスト「敬語Ⅱ 謙譲語・丁寧語」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第4回目	朗読：昔話③「浦島太郎」	テキスト「敬語Ⅲ 敬語の誤用」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第5回目	朗読：昔話④「大工と鬼六」	テキスト「敬語Ⅳ 接遇の敬語」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第6回目	朗読：昔話⑤「かたつむり長者」	テキスト「手紙文Ⅰ 手紙文の書き方」	プリント学習(文学・漢字・常識)	

第7回目	朗読：昔話⑥「聴き耳頭巾」	テキスト「手紙文Ⅱ 日常生活の手紙」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第8回目	朗読：昔話⑦「三匹の子豚」	テキスト「ビジネス文書Ⅰ 社内文書」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第9回目	朗読：昔話⑧「海の水はなぜ辛い」	テキスト「ビジネス文書Ⅱ 社外文書」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第10回目	朗読：昔話⑨「かぐや姫」	テキスト「文の書き方Ⅰ 各種符号」	プリント学習(文学・漢字・常識) 課題「私の人生を変えた一冊の本」提出	
第11回目	朗読：昔話⑩「年越しの火」	テキスト「文の書き方Ⅱ 文の構造」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第12回目	朗読：昔話⑪「雪娘」	テキスト「文の書き方Ⅲ 説明文の書き方」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第13回目	朗読：昔話⑫「金太郎」	テキスト「就職関連講座Ⅰ お礼状の書き方」	プリント学習(文学・漢字・常識)	
第14回目	朗読：昔話⑬「花咲か爺さん」	テキスト「就職関連講座Ⅱ 自己表現」	確認テスト	
第15回目	朗読：昔話⑭「くるみわり人形」	テキスト(就職関連講座Ⅲ 小論文)	全体のまとめ	
成績評価の方法と基準				
評価の領域		割合	評価の基準	
授業参加態度		45%	毎時間プリントを配布し、授業後に回収して、授業への参加態度を記入状況により評価する。45点満点：毎時間のプリントを3点満点で評価(すべて記入なら優→3点、良→2点、可→1点)×15=15～45点	
レポート		15%	「私の人生を変えた一冊の本」の課題の、表現力と自己分析の深さを記入状況により評価する。15点満点：課題の提出点が10点、レポートの完成度により1～5点を加える。	
調査報告書				
小テスト				
試験		40%	大テーマによる論述問題(2問)で10点、授業全体から短答式の設問(15問)で30点の試験。40点満点：論述問題は記入してあれば5点、完成度により1～5点を加える。短答式は1問2点となる。	
発表内容(態度含む)				
その他				
教科書と参考図書				
教科書：『実践国語表現 改訂版』(市川毅・仲井克己・原田留美著・おうふう・1000円) 参考書・参考資料：授業担当者より適宜紹介するが購入の必要はない。				
履修上の留意点・ルール				
毎回の授業でプリントを配布し回収して添削・評価を行うので、欠席した場合には「オフィスアワー」を利用して補講を受ける。				